年生だったＴくんは自分の気持ちを言葉にすることが難しかったのだと思います。ここでは黙ってしまいました。そこで、「じゃあコーチが言う言葉、Ｔくんの気持ちと一緒だったら教えて」と尋ねたところ、「わかった」と答えました。「一生懸命やっても楽しくない？」と聞くと「うーん…」といったようにだまってしまいました。「じゃあ、一生懸命やらない方がかっこいい？」と聞くと「ううん、それは違う」とはっきり答えました。そして、「一生懸命やっても無駄だと思った？」と聞くと、ちょっとさっきとは違う沈黙でした。その後色々聞いてみたところ、ＴくんはＫくんと比べて自分がへたであると感じていたり、一生懸命自分がやっているのに認めてもらっていないと思っていることが分かりました。

そこで私は、「Ｔくんはどんなことを頑張っているのか」「いいところはどんなところか」「コーチは保育園の頃からＴくんを見てるよ、あの時できなかったフェイントとかドリブルとか、今はどう？」とＴくんが今までやってきたことを、コーチはちゃんと知っているよ、と伝えました(図 7)。そこできっとＴくんは、自分の頑張りや上達をちゃんとわかってくれていた、知っていてくれていたと感じたのだと思います。また一生懸命練習を頑張るようになりました。Ｔくんにとっては、話し合い、認めることが必要だったと思います。

Ｔくんは、チーム全体の一人ですが、みんな考え方や感じ方は違います。Ｋくんのように、急激に発達する子もいれば、Ｔくんのようにコツコツ努力して上手になる子もいます。Ｋくんの上達に素直に「すごい」と言える子もいれば、劣等感を感じている子もいます。

この関わりを通して、サッカーを指導するということは身体的な能力の発達をうながすだけでなく、私が大学で学んできた保育としてのスキルを活かす、つまり精神的な発達の側面からも援助していくことが必要であり、子どもの変化に少しずつ気づけるようになっている自分に気づきました(図 8)。私は社会貢献をしていく上で、大学で学んだことが発揮できたと思えるようになりました。

最初は求められたからする、という受け身だった姿勢が、だんだんと受け身な姿勢はただの穴埋め作業にすぎない、そして子供たちのために何が出来るかを考え、子どもたちのためにしてあげることがあるはず、と自ら学びそれを活かすことが必要であると感じました(図 9)。私にとっては保育としての専門性を活かすことがここに活きたものと思います。

また、子どもたちから学ぶこともありました(図 10)。 各年齢の発達段階を学ぶ機会があったことです。この経験は、児童養護施設の子供たちとの交流にとても役立てることができました。

また長期的に関わり、子どもたちの成長を間近で感じることができました。また長期間において関わることができたからこそ、子どもたちに真剣に向き合うことができ、自分が子どもたちに何ができるか、そして自分の学びをどう活かすことができるか、ということに気づくことができました。

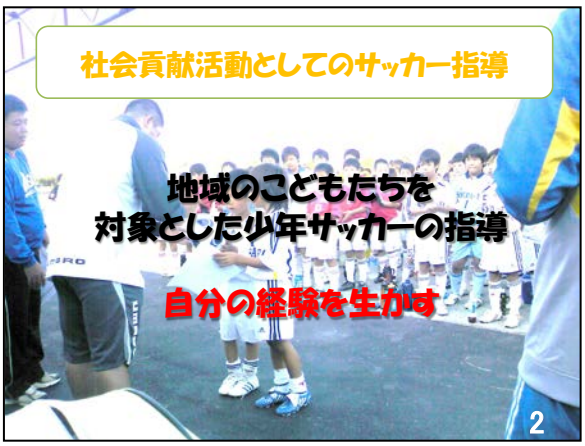
この環境は、私とそして子どもたちのお互いが高め合うことができる環境であったのだと思います。相手のためにと思ってもやりすぎてしまい、子どもの発達を促すような行動ではないことをしてしまうことをすると、お互いを高め合う環境ではないと思います。

活動をふり返って、私が考えるより良い社会貢献とは、相手に何ができるかということを考えお互いに刺激し合い、お互いに高め合う環境を作っていくことだと思います(図 11)。

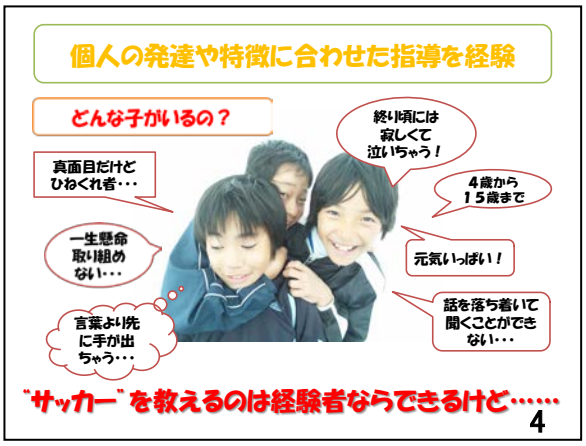
私は来年から保育士として働きますが、今までの経験を活かし社会に貢献し続けていきたいと思います(図 12)。

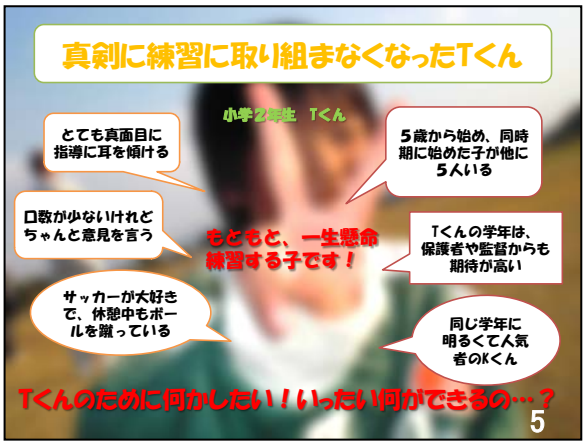
ご清聴ありがとうございました。

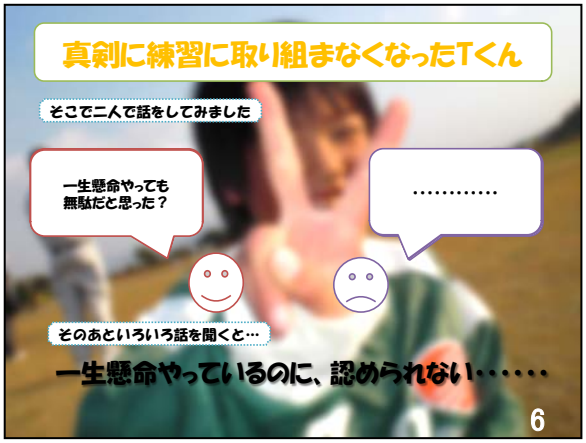
社会貢献活動としての
少年サッカー指導
人間形成学科
4年　上野友梨恵
1


社会貢献活動としてのサッカー指導
地域のこどもたちを
対象とした少年サッカーの指導
自分の経験を生かす
2

少年サッカーの指導って・・・？？
どんなことするの？
サッカーの
指導や援助
指導計画の
作成
試合での引率
やコーチング
指導のために・・・
トレーニングメニューや
スキルアップのための方法を勉強
3


個人の発達や特徴に合わせた指導を経験
どんな子がいるの？
真面目だけど
ひねくれ者・・・
終り頃には
寂しくて
泣いちゃう！
4歳から
15歳まで
一生懸命
取り組め
ない・・・
元気いっぱい！
話を落ち着いて
聞くことができ
ない・・・
言葉より先
に手が出
ちゃう・・・
"サッカー"を教えるのは経験者ならできるけど……
4


真剣に練習に取り組まなくなったTくん
小学2年生　Tくん
とても真面目に
指導に耳を傾ける
5歳から始め、同時
期に始めた子が他に
5人いる
口数が少ないけれど
ちゃんと意見を言う
もともと、一生懸命
練習する子です！
Tくんの学年は、
保護者や監督からも
期待が高い
サッカーが大好き
で、休憩中もボー
ルを蹴っている
同じ学年に
明るくて人気
者のKくん
Tくんのために何かしたい！いったい何ができるの…？
5


真剣に練習に取り組まなくなったTくん
そこで二人で話をしてみました
一生懸命やっても
無駄だと思った？
……
そのあといろいろ話を聞くと…
一生懸命やっているのに、認められない……
6

真剣に練習に取り組まなくなったTくん

特別な声掛けではないけれど

・Tくんはどんなことを頑張っているか
・いいところはどんなところか

コーチはちゃんと知ってるよ！！

自分の頑張りを知ってくれていた

また一生懸命頑張るようになった！！！

Tくんにとっては、話し合い、認めることが必要だった

7

少年サッカー指導を通じて　感じたこと

"サッカー"
身体的な能力の発達だけでなく

精神的な発達の側面からも
援助していくことができ、子どもの
変化に少しずつ気づけるように

社会貢献をしていくうえで、
大学で学んだことが発揮できた

8

少年サッカー指導を通じて　感じたこと

「求められたからする」受け身だった
ただの穴埋め作業にすぎない！

とても大切に感じている子どもたちに
まだ何かできることがあるはず！

私にとっては、保育としての
専門性を活かすことだった

9

少年サッカー指導を通じて

①各年齢の発達段階を学ぶ機会
児童養護施設の子どもたちとの
交流にとても役立った！
②長期的な関わり
子どもたちの成長を感じることができる！

お互いに高め合うことのできる環境

10

少年サッカー指導を通じて

活動をふり返って…
社会貢献とは

相手に何かできることはないかと考える
お互いに刺激し合い、高め合う環境づくり

11

12

活　動　　社会貢献論演習

発 表 者　阿部巧[1]・藤本昂平[1]・馬場友美[2]
学　　科　[1]公共社会学科１年、[2]社会福祉学科１年

たがわ情報センター

社会貢献論演習受講者の、公共社会学科１年阿部巧です(図 1)。

今回は受講生３名を代表して、「伊田商店街に関する学生意識調査」の発表を行いたいと思います。

入学当初、伊田商店街に対して私たちが持ったイメージは、学生街にある商店街に対するイメージとは異なったものでした(図 2)。

そこで、私たちの中に「伊田商店街を活性化したい！」という「強い思い」が芽生え始めました(図 3)。

しかし、私たちには伊田商店街に関する知識が乏しかったため、何をどのような方法でやっていけば、伊田商店街の活性化につながるかという考えに至ることはできませんでした(図 4)。

そこでまずは、伊田商店街のことを知ることが大切だと感じ、田川商工会議所を訪問してお話を伺うことになりました(図 5)。

そして田川商工会議所で得た情報は(図 6)、
・営業日時が、学生が買いものに行く時間外であるということ
・イベントの宣伝方法が新聞の折り込みチラシであるということ
・学生ではなく高齢者をターゲットに商売をしておられるということ
でした。

これらのことから(図 7)、
「どうしたら学生も活用できる伊田商店街にできるのだろう？」
、「学生もターゲットにしてもらうことで伊田商店街の活性化につながるのではないだろうか？」という考えが浮かび、「伊田商店街活性化のために貢献したい！」という気持ちがますます強くなっていきました(図 8)。

そのために、
「どのくらいの学生が伊田の街で生活しているのか？」
「学生がどのくらい伊田商店街を利用しているのか？」
などという基本的な事実を確認するために、学生アンケートを実施することにしました(図 9)。

期間は、去年の 12 月 16 日～今年の１月 13 日、対象は、県立大学の１年～3 年の全学生　合計 675 名、内容は、学年・学部・学科・性別・出身からなる属性と、現在の住まい・通学方法・下車駅・伊田商店街を利用したことがあるか・あったらいいと思う店・あったらいいと思うサービス、以上の６つの質問項目で行いました(図 10)。

また方法は、各学年・各学科ごとに必修となっている講義をピックアップし、その講義を訪問して学生に直接アンケート用紙を配布し、その後回収しました(図 11)。

有効回収数は 666 で回収率は 98.7%と、非常に高いものとなりました。

では、アンケートの結果を見ていきますが、今回は特に特徴がみられた項目のみをピックアップして紹介していきたいと思います。

まず、「出身」を「学年別」で見たものです(図 12)。

スライドに示す通り、福岡県内出身の学生と県外出身の学生はほぼ同数であるということが分かりました。

次は「現在の住まい」を「性別」で見たものです(図 13)。

このグラフからは、伊田周辺に住んでいる男性は63.4%、女性は70.2%ということが分かりました。

この結果から、約70%の学生が伊田周辺で生活しているということになります。

次は「通学方法」を「住まい別」で見たものです(図14)。

伊田周辺に住む人では、61.8%が徒歩で、37.7%が自転車で通学をしていました。

この結果から、これだけの学生が伊田商店街を利用できる状況にあるということが分かります。

そして、その他の地域に住む人を見てみると、車と電車を利用している人が約50%でした。

その中で、電車を利用している人の下車駅を見てみると(図15)、76.3%の人が伊田駅を利用しているということが分かりました。

この結果から、電車利用者の中でもこれだけの人が、伊田商店街を通ることができる状況にあるということになります。

では、実際に伊田商店街を利用したことがある人はどれくらいいるのかを見てみます。

「学年別」に見てみると(図16)、1年生が24.8%、2年生が13.0%、3年生が19.0%と、利用したことがあると回答した学生は、わずか全体の約2割しかいませんでした。

次に学生が伊田商店街を利用しない理由を見てみたいと思います(図17)。

このグラフからは、伊田周辺に住んでいて「利用したい店がない」と回答した人が56.3%もいることが分かりました。

また、その他の地域に住んでいて「通学で通らない」と回答した人が60.6%に達していました。

では、どのような店があれば、そのような問題は解消されるのでしょうか。

このグラフから、カフェのような人が集まり憩える場所を希望する学生が、地域に関わらず約50%もいることが分かりました(図18)。

最後に「あったらいいと思うサービス」を「住まい別」に見てみます（図19）。

スライドから分かる通り、「学生割引」を希望する学生が、伊田周辺で88.3%、その他の地域で84.9%と、約9割もの学生が希望していました。このことには結果が出て私たちもとても驚きました。

しかも、この結果に関しては「学年別」や「性別」で見てみても同じような結果となりました。

これらの結果を踏まえて、私たちは次のことを提言したいと思います。

カフェのような、人が集まり憩える場所を希望していることから、伊田商店街にカフェを作る(図20)。そして約90%の学生が「学生割引」を希望しているということから、学生割引を実施する。こうして学生もターゲットとすることで、伊田商店街の活性化につながるのではないでしょうか。

これからは、事実を基にしたこれらの具体案を軸として、伊田商店街を活性化することができるよう、活動を行っていきたいと考えています。

以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

伊田商店街に関する学生意識調査

H22年度 後期 社会貢献論演習
○阿部巧・藤本昂平・馬場友美

1

伊田商店街に
対するイメージ

＝

学生街の商店街に
対するイメージ

2

伊田商店街を
活性化したい！

という「強い思い」が芽生えた

3

しかし、、、

・伊田商店街に関する
知識が乏しい

・何を？どのような方法で？

4

まずは、、、

伊田商店街のことを
知ることが大切！

↓

田川商工会議所を訪問

5

田川商工会議所で得た情報

・営業日時

・イベント開催の宣伝方法が
新聞折り込みチラシ

・高齢者をターゲットにしている

6

どうしたら学生も活用できる
伊田商店街にできるのだろう？

学生もターゲットにすることで
伊田商店街の活性化につながるの
ではないだろうか？

7

伊田商店街活性化の
ために貢献したい！

8

どのくらいの学生が
伊田の街で生活しているのか？

学生がどのくらい伊田商店街を
利用しているのか？

9

学生アンケート

期間：平成22年12月16日～平成23年1月13日

対象：福岡県立大学1年～3年の全学生
合計675名

内容：属性（学年・学部・学科・性別・出身）
質問（現在の住まい・通学方法・下車駅・伊田商店街を利用したことがあるか・あったらいいと思う店・あったらいいと思うサービス）

10

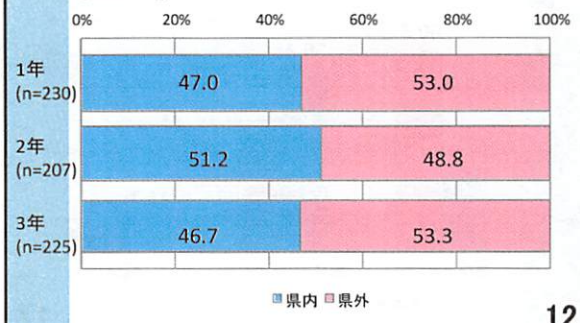
方法：各学年・学科ごとに必修となっている講義をピックアップし、その講義を訪問して学生に直接アンケート用紙を配布、その後回収。

有効回収数：666

回収率：98.7%！

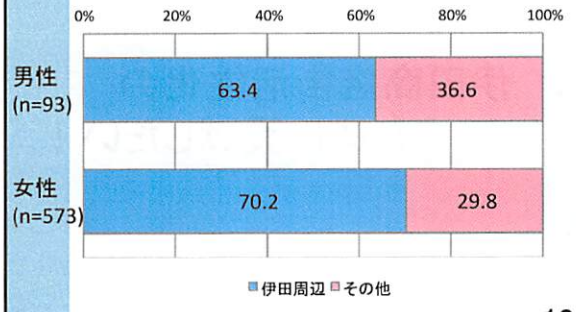
11

出身



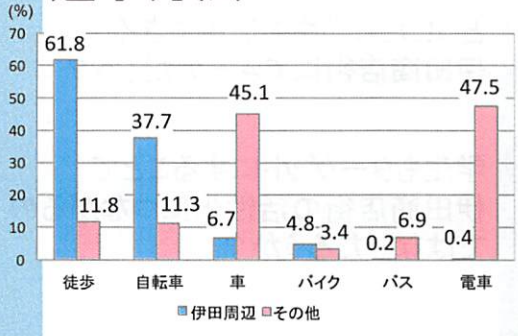
12

現在の住まい



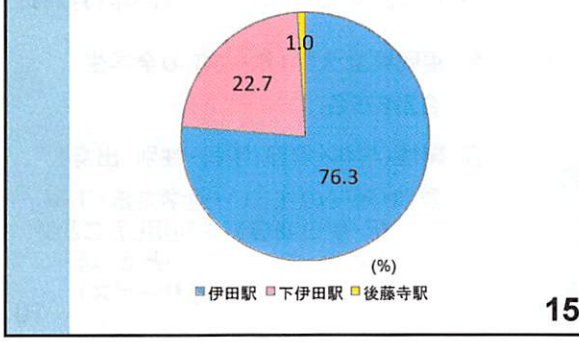
13

通学方法



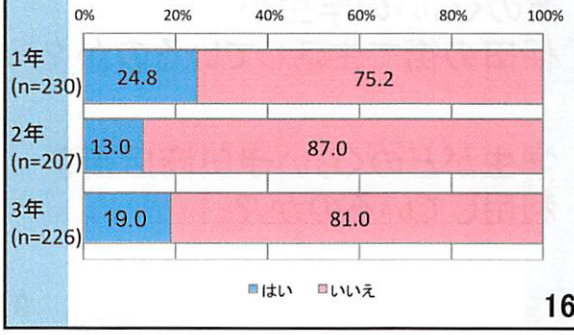
14

下車駅(電車利用者のみ)



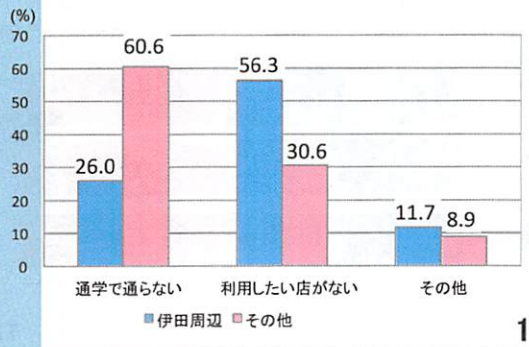
15

今年度、伊田商店街を利用したことがありますか



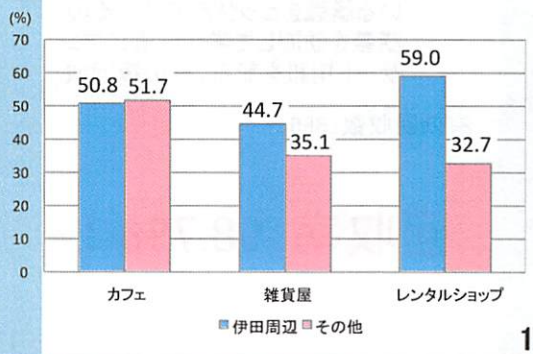
16

利用しない理由



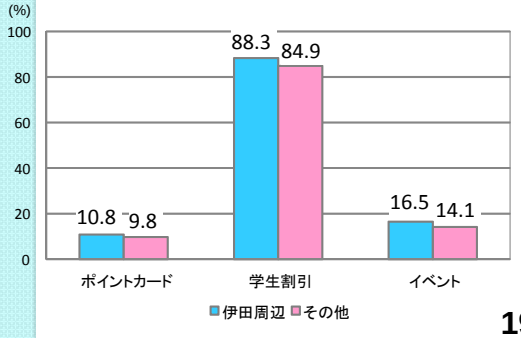
17

あったらいいと思う店



18

あったらいいと思うサービス



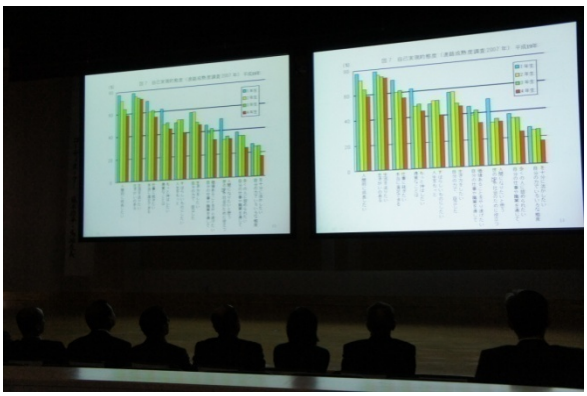
19

・カフェのような、人が集まることが
できる場所を希望している
→伊田商店街にカフェを作る！

・約90%の学生が「学生割引」を
熱望している
→学生割引を実施する！！

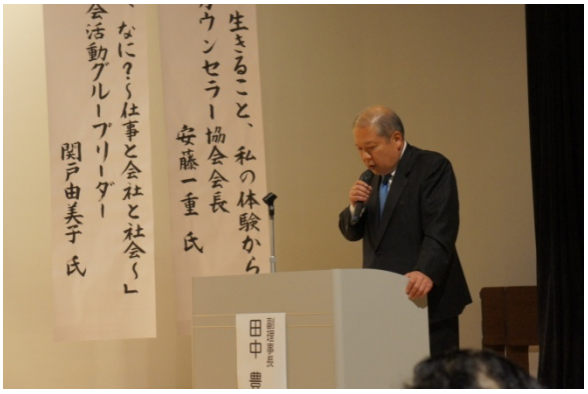
20

平成二十二年度
文部科学省大学生の就業力育成支援事業
福岡県立大学 社会貢献フォーラムⅠ
「社会に貢献できるリーダーを育てる」



本学生の就業力を構成する8つの力
本学生の就業力を構成する8つの力

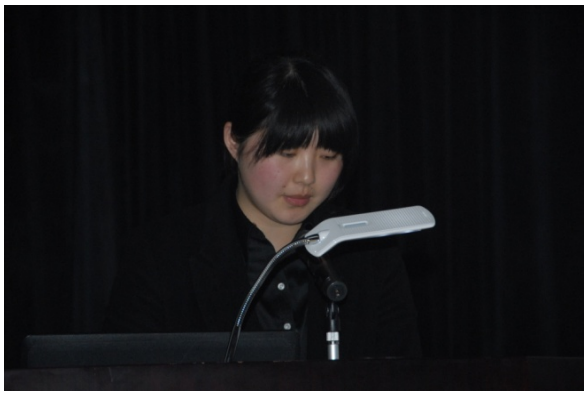
就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム
リカレント教育
公開卒論発表会
社会貢献フォーラムⅢ
社会貢献フォーラムⅡ
社会貢献フォーラムⅠ
正課教育
正課外教育
就業力向上支援会議／就業力向上支援プログラム推進会議

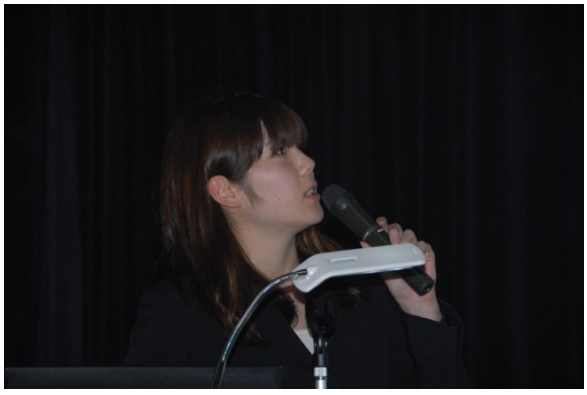

生きること、私の体験から
ウンセラー協会会長
安藤一重 氏
なに？～仕事と会社と社会～」
会活動グループリーダー
関戸由美子 氏

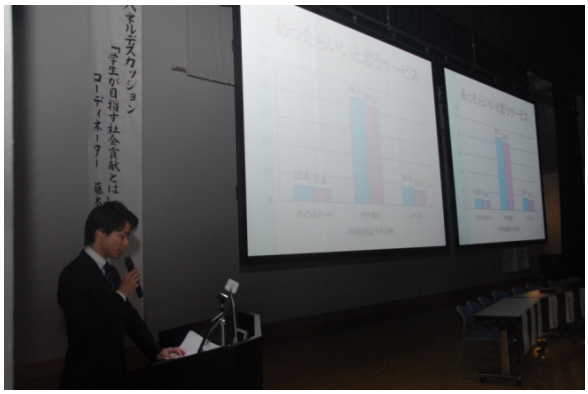
平成22年度福岡県立大学社会貢献フォーラム！
社会に貢献できるリーダーを育てる

鬼﨑 信好

指す社会貢献とは」







阿部 巧
丁 雨君
平野 由里
二子石拓也

社会福祉学科3年
二子石拓也
人間形成学科4年
上野友梨恵
人間形成学科2年
中田友佳里

人間形成学科2年
中田友佳里
社会福祉学科2年
宇都宮真奈
社会福祉学科2年
佐熊 美樹

由美子 氏
藤本

平成22年度福岡県立大学社会貢献フォーラム1
社会に貢献できるリーダーを育てる

まつりIN田川
学校支援

学生からよせられた感想

・すごくためになりました。
・色々なボランティアサークルがそれぞれ目標や課題を、自分たちで考えながら活動しているのがすごいなと思います。社会貢献って自分には何が出来るのだろうと考えさせられました。
・ボランティアサークルに興味がわきました。
・とても興味深い内容でした。
・パネルディスカッションというものを始めてみたため、とても刺激になった。
・今回、スタッフとしての参加だったが、講堂で様々な話を聞いて、社会貢献の大切さを学ぶことが出来たと思う。私は、ボランティア活動には、参加していなくて、前から参加してみたいと思っていたので、自分が参加できるようなことを見つけて積極的にボランティア活動に参加したいと思う。本当にためになることが多く詰まったものだった。今回参加して、本当によかったと思う。
・講演をして頂いた先生からの企業からの視点と学生の発表による視点から聴くことが出来、視野が広がりました。
・スタッフの方々、準備等大変だったと思います。とても良いフォーラムでした。ありがとうございました。
・ボランティア等の活動をしている人達が､様々な事を学び、成長していることが分かりました。
・様々なボランティアサークルや貢献活動の事を知ることが出来て良かったです。
・学生のパネルディスカッションをメインにした方が良かったと思います。
・私は、入学した時この県立大学がボランティア活動がとても盛んであることを知り、社会貢献論の講義を受ける中で、自分も何かしたいとか経験したいと思いながら１年がたちました。『主体性』の話や「～したい」の話がありましたが、私も～したいと思いながらも、やりたい事ばかりが増えていって実行できずにいたことを反省しました。今日サークルなどの様々な活動を知り、私も社会貢献出来るはずなので、まずはじっくり考える時間を作っていきたいと思います。
・県立大学のサークル活動の内容が分かりました。講演を聞いて、働くことや社会貢献について考えさせられました。
・関戸さんの講演を聞いて、理論、根っこの大切さを再認識できたのは良かったと思う。また、自分の求めるものを認知した上で、相手がどう考えるか、相手の軸に基づき考えるという姿勢は私が大切にしていることの一つだ。これが社会貢献では重要だと関戸さんがおっしゃったことについて自分に自信が持ててうれしく感じた。
・今後の県大生の課題点がよくわかりました。また、県大生ならではの長所があることがわかりました。
・県大生の課題が分かり今後、何を考えて生活していき、将来このフォーラムを活かせるようにしたい。
・学生のパネルディスカションは、わかりやすくとても良かったです。身近で同じ学生がボランティアなどの活動をやっている姿にうれしくなりました。何事も体験するのが一番ですね。
・社会貢献の力が就業力向上につながり、学生のサークルなどによる社会貢献活動が自身のスキルアップに役立つということが分かった。
・社会貢献と一言で表しても、様々な捉え方、貢献があるとわかった。
・学生のみなさんお疲れ様でした。素敵な発表会でした。
・新社会人として、女性として、大変興味深く拝聴させて頂きました。社会貢献、社会福祉と言う分野は活動の効果が目に見えて表れにくいという側面があり、モチベーションを高く持ち続けることが難しいところですが、何かしたいという主体性、自己満足にならない協調性、目の前の現実だけにとらわれない

本質を見抜く力が必要であり、また、それが原動力となるのではないかと改めて感じました。

・参加前は、「社会貢献」って、そもそも何だ？・・何か聴きたいと思わない。と思っていました。講演を聞いて、今「社会貢献」をちゃんと理解できたとは思っていません。しかし、この講演で、関心を持ち、また、知識を得られたことは、本当によかったと思います。この機会から社会貢献について、よく考え、また、自信も「社会貢献」出来る人になりたいです。

・学生だから出来る社会貢献もあるのだと思いました。今後の自分に活かしていきたいです。

・お話を聞くだけだと、あまり頭に入ってこなかった。話が難しかった。

・知っている友達や先輩、後輩の入っているサークルの詳しい活動内容等知ることが出来、素晴らしい社会貢献を行っているのだなと感心しました。私は、まだまだ「社会貢献」出来ていないので、今回「社会貢献フォーラムⅠ」に参加して、とても勉強になりました。

・講演を聞き、働くと言うことがどのような事か考える事が出来ました。～したいと言う気持ちを大切にしたいと思います。

・学生の発表は、同じ学生の立場として話を聴いて興味深かった。個人的に献血推進サークルの詳しい活動内容を新しく知ることができ、参加したいと感じた。口コミでしかサークルの活動を知ることが出来ないため、このような発表の場を持って、自分が所属しているサークルの活動を知ることが出来る機会があるということは大変貴重であると感じた。特別講演や基調講演も有意義ではありましたが、もう少し時間を短くした方が良いのではないかと感じました。学生の自発的な活動を具体的に知ることが出来、もっとこの会の規模が広がればいいなと思いました。パネリストの方、スタッフの方お疲れさまでした。

・社会貢献というものについて、具体的に考えたことがなかったので、今日のフォーラムはとても良い機会になりました。社会に出て、主体的に活動できるようになりたいと思いました。

・多くのサークル活動を知ることが出来、私も何かボランティアサークルに参加しておけばよかったと思いました。今後社会人として仕事をし、生活していく中で少しでも社会貢献できたらと思います。

・とてもためになるフォーラムでした。社会貢献とは何なのか。今一度考える機会を与えて頂きました。

・様々なサークルの活動等の具体的な話を聴くこと出来て良かったです。また、学生主体のパネルディスカッションも素晴らしかったです。今日参加して良かったです。

・自分の考えをまとめる良い機会になりました。このような場は自らのモチベーションをあげる機会にもなりますし、活動の幅を広げる機会にもなりました。サークルとしては、次のこのような機会を目指し、相手の求めに応じる事が出来る多様な専門性のある人間になりたいと思います。ありがとうございました。

・「社会貢献フォーラムⅠ」に参加して、自分がしたことが認められてありがたいと思います。そして、学生さんたちが一生懸命準備する様子を見て感心しました。

・保育専攻なので、上野さんの発表などとても為になる内容でした。たくさんの考え方があってとても勉強になりました。

・ボランティア活動には参加していても「社会貢献」について考える事がなかったので、その機会が得られて良かったです。

・「社会貢献」ということをあまり深く考えていませんでしたが、自分がしているボランティア活動がさらに深まり、「社会貢献」に繋げていけたらいいなと感じました。

・自分達の活動を振り返ることができて、さらにそれを先生や学生、地域の人々に知っていただけて良かったと思います。

外部参加者及び教職員からよせられた感想

・開催に向けての準備や当日の発表など、学生のみなさんお疲れ様でした。
・資生堂の関戸先生の話の中から、社会への貢献について、解りやすく話を聞けました。相手軸でもっと考える力を養うべき。
・学生たちの活動がすばらしい（単なる自己満足ではないし）。今後の活動が楽しみです。自分の進む道を考え、しっかりと自分を見つめて、ボランティア活動する対象の事も考え、お互いを認め合い高めているのがすばらしいと思いました。
・県大の学生を市町村（田川地区）の審議員として就任させてみてはどうか。県大が推挙して、市町村が任命する。
・たけのこサークル、「居場所」が「ありのままの自分を表現できる場所」は高齢者施設にも通じるところであり、拝聴しました。
・県立大の学生に地域作りの手伝いをお願いしたい（大学と地域の人と行政で何か出来ないだろうか）。
・伊田商店街活性化に貢献したい気持。大変結構なことですが、現実化にはほど遠い現実です。商店街店主と直接話し合いすることが先決です。
・フレッシュな考え方、学生らしい理想等、社会人として初心を感じさせられました。今後も同様の活動を続けて欲しい。そして色々な所の意見ももっと集約していくとさらに良いものになっていくと思われます。
・多くの県大生がボランティア、社会貢献意識を持ち、幅広く活動している姿に感動しました。今後も県大生の活躍を期待していますし、支援していきたいと思います。フォーラムに参加させていただいてよかったです。ありがとうございました。
・学生さんのパネルディスカッションが素晴らしかったです。学生さんのは発表をきいて、新しい視点や気付きが生まれました。いろいろな経験を通して、大学生活を思いきりエンジョイしてほしいです。ありがとうございました。
・学生時代から社会と関わる事は大切であり、必要と思いました。がんばれ！！
・学生のかわいい感じがとてもよかったなあ。これからもわくわくするような体験を積み重ねてネ。機会があれば、宮若市の教育委員会へも足を運んでください。
・安藤会長の話がもっと長く深くお聞きしたかったと思いました。
・講演の時間をもっと長くして欲しかった。
・安藤先生のお話から、現代の人は（特に若い人）コミュニケーション能力に不足しているというお話、私も子供達に今後、どの様にコミュニケーション能力を身に付けていくか、考えて行きたいと思いました。
・今日は社会貢献フォーラムに参加してよかったと思っています。（初めてでしたので）これから私も少しでも何でもいいのでボランティア活動に参加したいと思いました。
・次の展開を期待させる内容でした。本格化する次年度以後の学生の成長が楽しみです。出来るだけ生の声をきかせてください。
・講演は２つともよかった。学生の発表は、それぞれ個性があって、活動内容も分かりやすくよかった。全体の流れもとてもよかった。
・講演、パネルディスカッション、感銘しました。ありがとうございました。
・私達の町は若者の少ない町です。今日は何十年ぶりかで学生さんと一緒に学ぶことが出来ました。サークルの皆さんの活動、期待しています。
・時間の都合で、学生のパネルディスカッションが聞けなかったのが残念。
・事業のすばらしい目的性、価値性、実践経過にあらためて感動を覚えました。この実践計画が進展し、効果を発揮し、学生さんたちの人生への挑戦力が一層磨かれることを確信いたしました。２講演も中身が濃くて大いに学びました。小松先生、多くの困難が予想されますが、学生さんたちの頑張りに支えられ

て力強く推進されていることに、心から敬服申し上げます。本日は深謝申し上げます。
・御校のボランティアに対する意識や活動実績が向上することは大変素晴らしく、今後も続けて頂きたいと思います。しかし自主的、主体的な活動が参加率や活動量、回数など他サークル、大学全体での優劣を競ったり、強制力が増して主客転倒しないよう留意されて下さい。ちなみに私は貧血気味で献血がこわい。献血の方へ若年層の低下の原因は何故？ＰＲ活動＋この原因への対応も必要かと。伊田商店街の活性化活動の方へ、費用、コスト、効果、利益のしくみ、向上対策、経営力をつけてください。商店も経営上、利益を上げなければなりません。利益向上の１つの方法は「売上向上」＝単価ｘ販売量です。価格（単価）下げた分、量が増える見積もりまで想定してください。そして、店主・店員さんと学生さんの声のかけ合い、人間的ふれあい、コミュニケーションも重要かと（覚える、わかる、語り合う）。
・学生のボランティア活動に感動！！
・日々働く事で社会貢献とはただの社会に役に立つための行動ということに考えを持っていたのですが、今回の講演を聞かせて頂き、誠に感慨深く思いました。また、学生さんの発表はとてもすばらしく感動致しました。
・県大の学生さんが地域において、いろいろな形で取り組んでいることがわかりました。若い力を田川の為に使って下さっているのが嬉しいです。
・２．は企業が何故ＣＳＲに取り組むのか？ポイントの説明がもう少しくわしく知りたかった。学生のボランティア／社会貢献活動から体験的に学ぶのを聞いて、とても素晴らしいと思いました。とくに少年サッカー指導から学ぶ、は実践的で良かった。また、参加したいと思いました。ありがとうございました。
・ボランティア活動などが小学生からも求められており、大変よいフォーラムであった。大学生のみで行うのではなく、小、中、高、大学、一般でボランティア精神の育成はどうあるべきか、また、各種類でどのような取組が出来るのか、などをディスカッションする方法もある。そして、各種類からの参加をもらって、各種類でのカリキュラム等に一から取り組むと良い。
・安藤会長の「キャリア開発は、人にしてもらうのではなく、自分から積極的にしていくものである」発言・主張が大変印象に残りました。学生のいろいろな取組の発表は、とても興味深く聞かせていただきました。
・自分のできる社会貢献は何が出来るか考えさせられるフォーラムでした。気づきと刺激の多い講演とパネルディスカッションでした。
・学校で授業を受けるだけでなく、社会貢献していくことの大切さを感じました。これから就職して働いていく時、基本となること（積極性、調査、人との関わり、協調など）を学べ、大切な時間だと思いました。
・アルバイト以外での社会活動のボランティアは、これまであまり存在感のないイメージが以前にはありましたが、学生さんたちががんばっている姿を通して、改めてボランティア意識の大切さを認識することが出来ました。大変意義深いフォーラムでした。
・県立大学の皆さんが、自分の思っている以上に地域を考え、又、社会に対し、こんなにも働きかけを行っている事に驚かされました。僕自身も今後は大学生の皆さんに負けないようにしたいと思います。
・少し時間が長いかと…。学生たちが生の声で地域に対して、自分たちの活動を発表する場面を作ることは、とても良いことだと思います。学生たちの活躍に期待します。
・福岡県立大学の社会貢献活動は校内だけにこもるだけではなく、学生が早く社会人としての自覚を得ること、ひいては就職活動にも大きな力となりうると確信しました。今日はありがとうございました。
・強いて一点あげれば、学生の発表はもう少し時間が短縮できると思った。中国からの留学生の話は事例も興味深く勉強になった。ボランティアのみならず、それ以外の取組もまぜてほしい。
・各市町村と大学がもっと連携をして、大学の活動が地域の人の目に触れるようにしていただきたい。
・途中から参加し、途中で帰らなければならないので残念でしたが、若くても年をとっても

考え、思う事は同じだと思いました。一生勉強ですね。
・60代中年の弁、年齢的に社会貢献活動は積極的に参加してないが、やはり若い方にがんばってほしいし、応援してあげたい。パネリストの活動発表を聞いてすばらしいことをされていると感じました。頑張ってほしい。自分の年齢からみて、開きがあると思った。これからの人にがんばっていただきたい。貴重なお話ありがとうございました。
・いろいろな障害者の方にたずさわり、若い人たちが一生懸命活動している、そのすがたは、私達にとってとても頭が下がります。頑張ってください。
・このような企画を今後も期待しています。
・日々がんばってください。今日はお疲れ様でした。
・学生の目線で見た社会貢献の思いが熱く伝わってきました。今後の活動に期待します。
・学生達のボランティア活動に感動し、これからの社会貢献に夢や目的を持たれている皆さんに感動と感謝を致しました。２講演では新鮮な気持で、そして、これからの私の人生に遠かった考えや心で、出会った人に接して行けると感動です。ありがとうございました。
・今日は本当に良いお話を聞かせていただき良かったと思いました。自分も色々の事に挑戦する事が好きな方で、何かしてみたいなと思いました。若い人を応援していきたいと思っております。
・学生の皆さんが努力した成果を見て感動、学生の視点も現場で活かせるよう、今後活動を一緒にしていきたい。
・資生堂　関戸先生の基調講演は、自分の仕事に照らし合わせることができる、教訓を得られる良い機会となりました。「相手軸で感じ、考え、行動しよう」ということばに共感できた。学生の方々の社会に対する意識の高さに驚いた。継続して自分のできることをコツコツと続けて、広めていって欲しい。学生時代から主体的に取り組んでいることがあることに対して尊敬できた。
・学生の取組みに驚いた。すばらしい。特に少年サッカー指導は、ＧＰの就業力向上につながるものであると思う。１年２年３年への刺激になったのでは。
・第一歩としては成功です。次に展開しましょう。
・学生の発表すばらしかったです。県大生のパワーは田川市に必要です。私も県外出身から田川に残った 20 年前の学生です。誘われ参加しましたが、参加してよかったです。
・第一回のフォーラムとして、幅広い内容で充実していたと感じました。学生さん達のボランティア活動（特に伊田商店街の活性化について、興味深く聞かせて頂きました）が、こんなに盛んであることに、ある意味驚き、感動しました。今の世の中で、彼ら、彼女らの姿勢や考え方、行動を見て（聴いて）、次の世代も夢が持てると感じ、うれしく思いました。これからもがんばってほしいと思います。また、これらのボランティアを支える福岡県立大学の先生方や職員の方々に感動しました。パネルディスカッションも、臨気な対応、率直な姿勢に好感が持てました。私の勉強不足かもしれませんが、「障害者」は「障がい者」の方が良いのではないか？と感じました。
・すばらしい学生の力に感激
・色んなボランティア活動をしていることを知って感動しました。これからも頑張って欲しいと思います。パネルディスカッションより参加させていただきました。
・大学生が色々な社会活動を主体的に体験されていることに驚きました。この活動を通して、問題点や課題をしっかりと把握されていました。すごい取組みをされていると感じました。
・県立大学がボランティアに多く参加していることは知っていたが、県立大学をあげて体系的に取り組んでいたことは初めて知りました。この取り組みをさらに深化していただいて、全国に発信し広げていただければと思います。
・関わり方の難しさを感じ、距離をおいている自分があり、若い方々が、こんなにも一生懸命取り組まれていることに感銘、地域、私達のような年寄も出来ることがあれば、是非、ご一緒できればもっともっと、このガタガタの日本も捨てたものではない、もっと良くなると思いました。参加させて頂いてありがと

うございました。
・すばらしかった。
・中国と日本の学校の比較が興味深かったです。
・ 入学時の希望に満ちた目標や志が持続して充実した人生の出発点となるようになって欲しい。地域に必要とされることを分析し、創造していくバイタリティーを大切にしてほしい。そのための地域とのコミュニケーション力をつけて欲しい。就労観、仕事観が変化するのではないかと思います。地域に受け入れられるのは根気のいることだと思います。じっくり取り組んで欲しい。
・学生にしかできないことがあります。大学の4 年間で模索しながら取り組んでいくことで、清々しい目をした若者が育つのだと思いました。彼らの社会貢献したいという思いを受け入れられる企業も必要ですね。
・皆さんが真摯な姿勢で対応している気持が強く伝わってきました。特にボランティア活動には感銘を受けました。課題もあるようですが、これからも更なる活躍をお祈りしたいと思います。次回発表も楽しみにしております。
・社会貢献ってなに？熱心にやっておられる。新鮮である。忘れていたものがポーンと出てきた感じを受けた。
・県立大学の学生の 70%がボランティアを経験していて、人の役に立ちたいという思いの強さに驚きました。相手の気持を知る事、認めることで、ありのままの自分を表現できる場を提供することで「来てよかった」「また来たい」と思ってもらえる努力をしていることに、私自身も激励されました。今日は本当にありがとうございました。またこの様な機会があれば是非参加させて頂きたいと思います。
・学生がボランティア等で社会に関わる、関心を持つことは、今後の成長に役立つことを確信いたしました。
・すばらしい学生がたくさんで､感動しました。これからも期待しています。
・学生さんたちのボランティア活動の内容やその想いなど、とてもよく伝わりました。内容も素晴らしかったと思います。
・パネルディスカッションの、学生の一生懸命な取り組みがすばらしかったです。

宇美町社会福祉協議会・山崎哲夫さんが後日によせて下さった感想を紹介します。

社協という立場で見せてもらったので、どのようにすれば学生ボランティアを発掘できるのか、もしかしたら発表の中にそのヒントが隠されているのではないかと耳を立てて聞いておりました。

以下純粋な気持ちで書かせていただきます。

学生のボランティア活動をやろうとする意識に脱帽です。ともすれば自分の楽しい時間になんでボランティアせないかんとと思いがちですが、もっとこうすれば楽しくなるのでは？この点が反省点だ！次はこんなことしよう！など、自ら活動にかかわっていこうとするその姿は昔の自分の学生時代にはなかったことで、頭が下がる思いです。社協が事業としてすることをすでに実践されている点がすばらしい。宇美町も見習います。

福祉的ボランティア活動として、精神や知的の障がい児・者に関わる活動が発表されましたが、今後は高齢者に係る活動も学生さんの中で取り組んでいってほしいなと思いました。例えば、一人暮らしの方にお手紙を書くボランティア、公民館に集めて催しをやるイベントボランティア、セラピーマッサージを習得して施設で活躍するボランティアなど様々です。しかし学生の立場で地域に働きかけることはなかなか難しいと思います。それには社協が間に入ってバックアップする必要があります。むしろ社協は学生さんとタイアップして地域福祉を進めていくべきでしょう(ただし学業が先決です。)

今回のフォーラムに参加させていただいて、私は以前よりもっと学生さんと直接話がしたいと思うようになりました。また機会があれば、ぜひ学生の方々とお会いしたいと思います。

参考になる意見ではございませんが、これが私の正直な気持ちです。見習います！

本当にありがとうございました。

発表を終えて

今回の社会貢献フォーラムで、私はたくさんの事を得ることができました。

まず、自分たちのサークルについて深く見つめなおすことができました。つくしんぼは、長い歴史や社協とのつながりがあり、たくさんの地域事業に参加しているということを再確認しました。私は、地域に貢献しているという自覚は無かったのですが、このフォーラムを通して、サークル活動としてだけでなく、社会貢献という視点でもボランティアができるということが分かり、もっと人の役に立てることがしたいと思うようになりました。

次に、ほかのサークルの活動や個人でのボランティア活動などを詳しく知ることができました。それぞれで考え方や活動の目的が違い、新しい発見をすることができ、ボランティアにもさまざまなものがあることを改めて考えさせられました。

このフォーラムを通して、自分たちの課題や新しい発見を見つけ、さらに私たちの活動をたくさんの人たちに知ってもらうことができ、嬉しく思います。自分たちにとってとてもいい刺激になったと思います。ありがとうございました。

（つくしんぼ）

社会貢献フォーラムに参加するにあたり、時期が後期試験と重なっていて原稿やスライドを作成する時間がなかなかとれませんでした。そのため、期日に間に合うのかどうかといった焦りと不安が大きかったのですが、無事に終えることができてよかったです。

原稿を作成するときに、サークルの中で話し合ったり、先輩方からのお話を聞いたりしてサークルの活動内容をまとめることで、自分の勉強にもなりましたし、サークルの今後の課題やそれについての対応をどのようにしていくかといったことを考えることもできました。

また、他のサークルや個人ボランティアの発表を聞くことができ、それぞれの活動内容や発表のやり方などを知ることができてよかったです。今後さらに成長できるように、個人でもサークルとしても活動をがんばっていこうと思いました。このような発表の機会を頂き、とても勉強になりました。ありがとうございました。

（てんぷらあいす）

私は今回、フォーラムでサークル発表を行うことで様々なことを経験することができました。最初は部長になったばかりで、サークルの歴史もよく知らないし、ボランティアの経験も少なく自分がやっていいのだろうかという不安がありました。しかし前部長のサポートや友達の励ましで無事やり遂げることができました。

発表を行うにあたり、部員にボランティアを通して学んだこと、悩んでいることを聞くことが出来ました。部員の思いを聞くいい機会になりました。同時に自分も活動を通してどう考えているのかなど整理することができたと思います。またサークルの歴史も知り先輩たちの思いに触れることが出来ました。当日は他のサークルの活動を聞き、自分たちのサークルにとりいれたらいいなと思うこともありました。私は今回の経験を活かし、これからの活動を積極的に行っていきたいと思います。

（たけのこサークル）

学生を始め、様々な業種の方がいらっしゃっていて、このような貴重な発表の場を頂けて、有り難い限りです。発表に向けて自分たちの活動をあらためて振り返り、まとめたことで、活動の反省点などが明確に見えてきたように思います。

また、今までは他のボランティアサークルと関わりを持ったり、どういった活動をされているのか詳しく知る機会がほとんどありませんでしたが、今回こうして様々なボランティアサークルの方と関わり、意見を交換出来たことで、自分たちの活動の幅がより広がりました。活動の枠は違えど、同じボランティアサークルとして切磋琢磨しあえ

る仲間と出会えたようで、嬉しく思います。

今回は、一方的に発表をしただけでしたので、私たちの発表を聞いて、参加者の方がどう感じられたのかなどを知る、意見交換の時間があればいいなと思いました。

（献血推進サークル）

個人的なフォーラムの感想としましては、大きな場で自分たちのサークルの活動発表をすることで部員の意識が高まり、今後の活動をするにあたり目標と課題を発見できた場だったと思います。他のボランティアサークルの活動を聞くことで参考にもなりましたし、定期的にこのような場があると活動の目標をより高いものにして活動の質を高めることができます。

全体の感想としましては、フォーラム前の駐車場整備やフォーラム中などに感じたことで、多くの地域の方の助けと期待を負っているのだと感じました。また、そのような環境の中で活動できることにうれしさと責任を感じることができました。

他にも講師の先生の講演は私たちの活動に大変役に立つお話だったと思います。また今後このような機会があると私たちの目標にもなりますので大変いい場だと思います。今回はこのような場にお呼びいただきありがとうございました。

（ハンドポスト）

今年、私は福岡県立大学で留学しています。学校でボランティア活動が盛んにおこなわれている事を知りました。11 月に地域のイベントのキャンドルナイトの運営に参加しました。その時、ボランティアの楽しみを味わえました。それで、日本の小学校の仕組みや教育内容が知りたかったので、12 月から小学校の学校支援ボランティア活動を始めました。私は、月曜日午前中 5 年生、午後 1 年生の教室で教員の補助活動を行っています。そこで感じたことと中国で自分が体験したものと比較し、感じ得たことを 3 月 3 日に発表しました。

発表を通して、自分の成長を感じました。責任と自己価値を感じました。そして、今までしたことが認められるのを感じました。みんなが一緒懸命発表を準備している姿、真面目に発表している姿は私を覚えさせました。皆はこのフォーラムを通じて、これから、必ず職場でよく働けると思います。

（TA 活動　日本の小学校を体験）

今回私は社会貢献フォーラムにより、自分自身の社会貢献について振り返る機会を得ることができました。また、福岡県立大学の学生や地域の方に「社会貢献とは何か？」「学生の考える社会貢献とは？」という問いを投げかけることができたのではないかと思います。この問いは、学生の行っている社会貢献活動、ボランティアを見つめなおす機会となるのではないでしょうか。ぜひ、次のことについて振り返って頂きたいと思います。

まずは、「相手のために、自分のために」なっているかどうかです。私は社会貢献活動とは相手のために何ができるか、そしてそこから自分自身も成長することができるかどうかが重要であると思います。相手が自分の活動に依存してはいないか、また自分も相手に依存し、負担をかけていないかを考えることが大切です。

そして、「社会貢献には何が必要か」を考えることです。今行っている社会貢献活動に求められていることは本当にそれだけでしょうか。今以上に学び、伝えていくことがあるかもしれません。これは社会貢献活動を行う上で非常に大切な問いであり、今回私が社会貢献フォーラムにより自分の活動を振り返った際、強く感じたことでもありました。

今回の社会貢献フォーラムのような経験は、今後多くの学生にも経験して欲しいと思います。そしてより充実した社会貢献を行い、社会を盛り上げ、自分自身の糧になるよう努めて欲しいと感じます。

（少年サッカー指導）

社会貢献論演習では、他の学生がなかなかすることができない経験を数多くさせていただくことができました。そして学生アンケートを実施する過程においては、アンケートの方法や統計解析ソフトを使用してのクロス集計など、非常に重要なスキルを身につけることも出来ました。

またそれと同時に、私たちがまだまだ未熟であり、これから学ぶべきことが多くあるということ

にも改めて気付かされました。このことも社会貢献フォーラムⅠを通して私たちが得ることができたことの中の一つであり、最大の収穫であるとも感じています。

今回のような機会を与えていただき、学生として本当に嬉しく思います。

最後になりましたが、社会貢献論演習でご指導くださった先生方、考え方やスキルの乏しい私たちに､的確なアドバイスをしてくださった先生方、そして何かとお力添えしてくださった社会貢献・ボランティア支援センターの原口さんに深く感謝いたします。

（社会貢献論演習）

就業力向上支援会議

理事長兼学長	名和田新[1]
副理事長	田中豊司
常務理事兼事務局長	武田清一
教員兼務理事	鬼﨑信好[2]
教員兼務理事	安酸史子
人間社会学部長	森山沾一
看護学部長	佐藤香代
附属図書館長	古橋啓介
附属研究所長	松浦賢長
社会貢献・ボランティア支援センター長	小松啓子
全学教務部会長	小松啓子
学生生活支援部会長	小嶋秀幹
就職・国試等支援部会長	中野榮子
経営管理部長	南　　巧
学務部長	鬼丸健二

[1]議長、[2]副議長

就業力向上支援プログラム推進会議

人間社会学部人間形成学科教授	小松啓子[1]
人間社会学部社会福祉学科准教授	村山浩一郎[2]
看護学部ヘルスプロモーション看護学系准教授	石川フカヱ
人間社会学部人間形成学科准教授	岩橋宗哉
人間社会学部社会福祉学科講師	奥村賢一
人間社会学部一般教育等准教授	Gale Ian Stuart
看護学部基盤看護学系講師	小出昭太郎
人間社会学部公共社会学科講師	永田　瞬
人間社会学部生涯福祉研究センター准教授	中村晋介
人間社会学部社会福祉学科准教授	本郷秀和
人間社会学部一般教育等准教授	水野邦太郎
人間社会学部一般教育等准教授	森脇敦史
看護学部臨床看護学系准教授	渡邉智子
人間社会学部人間形成学科助手	岡村真理子
人間社会学部社会福祉学科助手	松岡佐智

[1]委員長、[2]副委員長

社会貢献・ボランティア支援センター運営部会

人間社会学部人間形成学科教授	小松啓子[1]
人間社会学部社会福祉学科准教授	村山浩一郎[2]
看護学部ヘルスプロモーション看護学系准教授	石川フカエ
人間社会学部社会福祉学科准教授	本郷秀和
看護学部臨床看護学系准教授	渡邉智子
社会貢献・ボランティア支援センター専門研究員	原口智子

[1]委員長　[2]副委員長

就業力向上支援事務局

事務補助員	楠根直子
インターンシップ受入機関開拓担当者	坂田寿子
社会貢献支援プログラム専門指導員	團野博美
キャリアカウンセラー	鶴山　誠
事務補助員	手島貴子

（50 音順）

学生スタッフ

阿部　巧	有田彩乃	一口華澄	伊藤　彩	上野友梨恵
内田日香瑠	宇都宮真奈	王　　艶	大園友恵	大西美沙季
緒方詩織	緒方千佳子	小田あいり	小野薫子	萱嶋沙彩
川﨑美穂	清成由恵	鍬田裕美子	嵇　　蕾	児玉美咲
佐熊美樹	鮫島由紀	品矢紀代子	関明日香	関口紗矢
田淵　愛	丁　雨君	永井友幸	中田友佳里	西川真美
西村幸平	野木俊輔	野見山綾夏	馬場友美	平田美樹
平野由理	福永麻里	藤澤幸恵	藤本昂平	二子石拓也
本田奈津子	村田　唯	山根香織	渡辺文恵	

（50 音順）

社会貢献フォーラムⅠ「社会に貢献できるリーダーを育てる」報告書

編　集　就業力向上支援プログラム推進会議
発　行　公立大学法人 福岡県立大学 就業力向上支援事務局
〒825-8585　福岡県田川市大字伊田 4395 番地
TEL　0947-42-1321（直）　FAX　0947-42-6171（代）

この報告書を無断でコピーまたは他に使用することを禁じます。